

できること

モーションキャプチャー技術を用いて運動の症状や顔の表情を定量化できます。

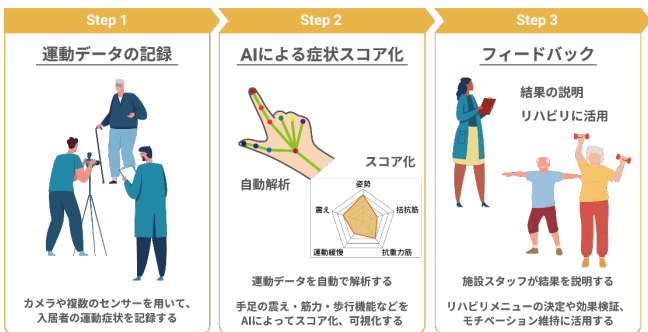
概要

当社は、神経内科の医師と理工学部の技術者で立ち上げた医工連携ベンチャーです。世界にはパーキンソン病を始めとする神経難病に苦しむ患者さんが多くいます。臨床で神経難病に苦しむ患者さんを目の当たりにしました。当社はこのような患者さんを本当の意味で救うために、基礎研究を重ねることが重要と感じ、医工連携でテクノロジーによる解決手段を提供します。具体的にはモーショントラッキングの技術を用いて、パーソナライズされた行動療法を提供します。これまでに、(株)サンウェルズと共同でパーキンソン病患者向け運動機能評価システムの開発に着手しました。今後は医療機器としての認証を視野に入れて現場と患者さんに即した開発を医工連携で進めていきます。

強み・独自性

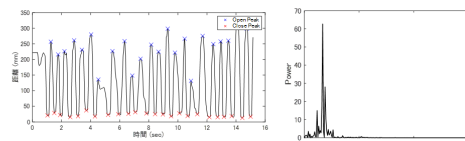
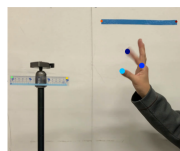
- ・体の部位をキャプションしてモーショントラッキングができる。
- ・この技術を用いて医師が開発した行動方法に基づいてAIがパーキンソン患者のリスク判定をします。
- ・モーションキャプチャーを利用する事でパーキンソン病症状を定量化できます。
- ・センサー等を体につける必要が無い。
- ・医師と工学技術者の経営陣がより現場に即した現場に効果的な技術開発を行っています。

参考画像



サービスフロー

01 指タッピング



測定結果イメージ



測定イメージ

応用例

- ・パーキンソン患者の早期発見
- ・デジタル遠隔治療等で動きに現れる症状変化を在宅でトラッキングする事ができるかもしれません。
- ・施設等で見守りカメラを置くだけで、自動で症状をトラッキングできるかもしれません。
- ・運動症状を細かく見ることが出来るため、個人ごとに評価してパーソナライズされたリハビリ等を提供できるかもしれません。

これまでの実績・参考情報

- ・論文発表や特許申請などの実績はないが、準備中
- ・プレスリリース(2023年1月31日)：株式会社サンウェルズと慶應医学部発ベンチャー株式会社ALAN、パーキンソン病患者向け運動機能評価システムの共同開発を開始

今後の開発の方向性・現在の課題

- ・パーキンソン病以外の疾患にも適用していく事を目指しています。

開発者の想い・パートナーに向けたメッセージ

【特に想定するパートナーとの連携方法】

- 製品の販売  技術・サービスの提供  新規テーマの共同企画

我々の技術を社会実装のために役立てたいと考えておりますので、ご興味ありましたらぜひご連絡ください。

会社概要・担当者情報

社名	株式会社ALAN				
事業概要	テクノロジーを用いて神経難病患者さんのQOLを改善させる事業				
住所	横浜市栄区元大橋1-8-10				
資本金	150万円	年間売上		従業員数	3名
設立年	2021年	URL	<a href="http://alan-healthcare.com/">http://alan-healthcare.com/</a>		

代表取締役

近藤 崇弘

050-5896-1697

kondo@alan-healthcare.com